

ヘリコプターリースは、現在業界最大手のマイルストーン・アビエーション・グループ（アイルランド）が2010年に誕生したのを皮切りに成立、発展してきた。業界の歴史は10年強で比較的最近立ち上がった業界だ。航空機リースの機体供給に占めるリース比率は40%を超えるのに対し、ヘリコプターは15%程度とまだ黎明期にある。

## リース業界最前線

市場予測によると、2013年の10年間、ヘリコプター需要（乗員数4人超の機材）は年平均約3%で成長し、機体数は全世界で約2万1000機から2万8000機に増加、需要拡大に伴ってリース比率は高まる見込みだ。ヘリコプターの需要拡大をけん引している一因は、探索救難や医療搬送などにおける運航ニーズの高まり。特に新興国地域では、世界全体に占める地域別シェアが23%から27%にまで伸びる見通しで成長のけん引役だ。加えて日本国内でも、自治体などの医療・防災サービス拡充のための需要増加などを理由に年平均2%の成長が期待されている。

新型コロナウイルスの感染拡大により、航

## 急増するヘリコプター需要

# 空の移動革命一翼担う

空会社は人の移動が制限されたことで旅客輸送量が大きく減少したが、ヘリコプター業界はオフショア（沖合）向け物資や人員輸送、公共性の高い防災、そ

空会社の機動性が特徴的である。島・山岳など交通アクセスに難のある地域で医療搬送や、救難・探索・その他災害対応など、緊急性の高い局面と社会的ニーズの高い分野で実力を発揮する。とりわけ近年は森林火災や洪水など、気候変動の影響に起因す

る激しい自然災害が世界の至るところで発生している。過酷な状況下で人命救助に貢献できるヘリコプターの需要は切実さを伴って急増している。加えて、ヘリコプターは海底油田・ガス田や洋上風力発電所の建設・保守整備における物資や人員搬送にも適しており、

は、高額で調達には多額の投資が必要になるため、市場の成長と連動してリース需要も増加している。さらに、空を利用した移動手段の未来には大きな可能性がある。例えば、飛行ロボット（ドローン）による離島や山間部での物流サービスや、都市部での人や物の新たな輸送サービスを目的とした「空飛ぶクルマ」の開発に貢献することがリース業界の役目となっていくだろう。

着陸できる特徴を持つ電動のeVTOLは、安全な運航を担保する法整備が検討課題だが、物流や近距離の旅客輸送、中距離の移動、さらに救急搬送など幅広い領域での活躍が期待され、ヘリコプターとの親和性も高い。



三井住友ファイナンス&リース執行役員  
トランスポート・ソリューション 統括部長  
**田中 宏一**

このように過酷な環境に対応できる最先端の高機能ヘリコプター

「空飛ぶクルマ」の開発に貢献することがリース業界の役目となっていくだろう。

（隔週木曜日に掲載）